

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2010/10/12 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：梶峰義清の「マーケットウォッチング」

～最新9月調査の日銀短観のポイントを解説しています。

2010/9/29 「大企業は7ポイントの改善を続ける ～円高よりも収益・売り上げ増が貢献～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～円高がデフレを生むメカニズム、猛暑の夏のあとのマイナス成長の可能性を解説します。

2010/9/28 「日本のデフレの一因に構造的円高 ～主因は需給ギャップ以外に内外価格差も。この点で異なる日本と米国～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～景気回復の正念場に差し掛かる欧米経済、注目の新興国経済について解説しています。

2010/9/17 「米国 追加景気対策が早期に成立しても景気減速は当面続く～2011 年後半まで目立った効果は期待できない～」

2010/10/8 「ECB政策会合：追加緩和を見送り？門戸は常に開いている ～量的目標を採用していないECBの流動性供給・国債購入～」

2010/9/29 「トルコ経済事情：緩やかに金融引き締めが進行している ～『欧州の周縁国』と『新興国』の側面を持ちながら高成長を実現するも、先行きの減速は免れず～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

今月の経済研レポートでは永濱首席エコノミストが、猛暑効果の後にはその反動で経済成長率がマイナスに落ち込みやすいことについて紹介している。あまりの暑さに、冷たいものを思わず口にしてしまう、あるいは、火を使うのが鬱陶しくて外食で済ます、というような消費の盛り上がりは、所詮一時的だ。過去には逆に寒い夏、暖かな冬で季節商品が売れないという経験もしている。景気転換のきっかけにはなっても、長期間で均せば景気のトレンド形作るものではない。

もう一つ、期限切れ後が懸念されている景気対策も消費の先食いの性格を持つ。もちろん急激な景気の落ち込みに対しては下支え効果を発揮してきた。しかし、これはそれ以前からデフレが続く日本にとっては本格的な成長戦略が動き出すまでの時間をもらっただけだ。新しい経済対策は打ち出されたものの、猛烈なスピードで変化する世界経済の環境変化に適応するための、手間のかかる体質改善はいつもながら後回しになっているように見える。日本経済にとって海外の需要は不可欠だが、それに身をゆだねているだけでは自律的な成長軌道には乗ることができないことは次第にはっきりしてきた。ましてお天気次第の経済ではあまりに心もとない。（H. U）